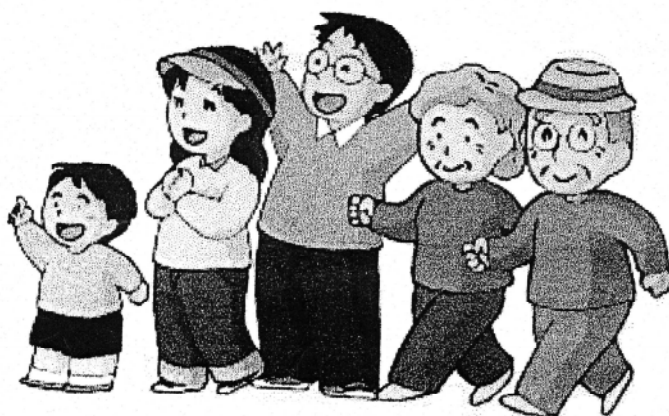


令和元年度 太田公民館 さわやかウォーキング大会

令和元年5月26日（日）
午前9時～午後2時



『真弓神社と大理石のふるさとを巡る』

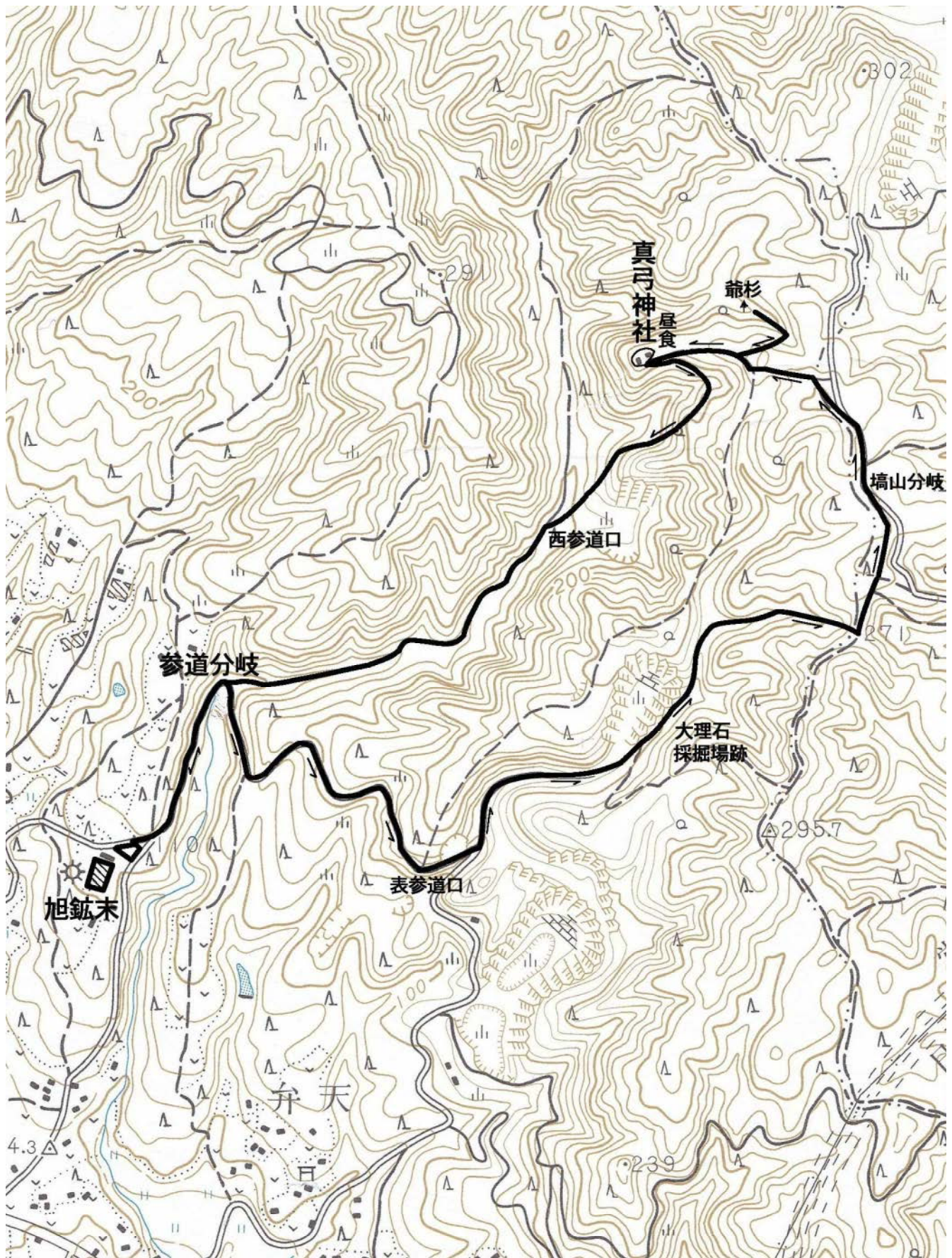
講師 ひたち太田生物友の会 古平 均 先生

【コース順】

旭鉦末駐車場出発 → 真弓神社参道分岐 → 真弓神社表参道口
→ 大理石採掘所跡 → 塙山方面分岐 → 塙山分岐 → 表参道分岐
→ 爺杉往復 → 真弓神社【昼食】
→ 裏参道口 → 真弓神社参道分岐 → 駐車場

**常陸太田市体育協会太田支部
太田公民館**

真弓山ハイキングマップ



今日の見所

1. 「真弓山」と呼ばれる目立った山頂はない

下の写真のように、真弓山には目立つ山頂はありません。そのため、真弓神社一帯を総称して「真弓山」と呼んでいます。



2. 旭鉦末(株)って何の会社？

旭鉦末(株)は東京に本社がある会社です。

会社概要によりますと、石灰石その他の各種鉱物および土石の採掘、採取、加工ならびに販売。・前項に付帯する一切の業務。と書かれています。

つまり、真弓山からとれる上質な石灰岩（寒水石ともよばれます）を粉末にして製紙・塗料・ゴム・接着剤・合成樹脂・壁紙・ガラス・農薬・肥料・飼料・工業用中和・道路舗装・グラウンドに引く白線など、広く活用される製品を作り出している会社なのです。



3. 信仰と大理石の「真弓山」

真弓山は標高279.8m。阿武隈山地の最南部に位置し、古くから信仰の山といわれます。真弓山という一つの頂上はなく、真弓神社の社が建つところ一帯の山々を「真弓山」と呼びます。

常陸五山の一つに数えられています。



4. 真弓山の名の由来

平安時代の終わり頃、源義家（八幡太郎義家）が父の頼義とともに陸奥（現在の東北地方北部）を制圧するために、山頂にある神社に戦勝を祈願した。その帰路、戦勝に感謝して朱塗りの弓を奉納したので、真弓山（真弓は上等な弓のこと）となったと伝えられています。

5. 真弓神社

祭神は

おおなむちのみこと おおくにぬしのみこと すくなひこ な みこと
大己貴命（大国主命）少彦名命

です。

真弓神社は、大同2（807）年さかのうえ たむら まろに坂上田村麻呂が陸奥征伐の際、当地に八所権現を奉ったことに始まるといわれます。

通称 お真弓さん

その後、寛治年間（1087～1094年）に源義家（八幡太郎義家）が父の源頼義とともに戦勝を祈願した際、持っていた弓を八つに切り、八体の仏像を作って奉納しました。それ以降真弓八所権現と言われております。

明治元年（1868年）12月、社名を現在の真弓神社と改めました。

当神社は、漁業及び農業の神として信仰されています。それは、真弓山が船の航行の目印となっていることと、真弓山の水を貰って米が豊かに実ることに由来するといわれています。



真弓神社

6. 真弓神社と猿

真弓神社は、比叡山の日吉山王権現を守護神にしています。これは西金砂山、東金砂山と同じです。

猿は日吉山王権現の神の使いとされているので、真弓神社においても猿は神の使いとして崇められています。

裏門（西参道）を守る一對の猿の像は、小名浜の船主が安全を祈願して奉納しました。

猿は縁起のよい動物とされています。

また、災害、厄、病魔がサルという縁起を担いだものとも言われています。昔は真弓山一帯にも猿が生息していたようです。



7. 八幡太郎義家にかかわる伝説

真弓山一帯にはおもしろい義家伝説がたくさんあります。

義家が、海に向かって弓を満月のごとく引いたところを満弓(真弓)、この弓から放たれた矢が勢いよく飛んだところを勢矢(世矢)、さらに、その矢がふらふらと揉んで飛んだところを揉矢(茂宮)、そして地面に突き刺さったところを留め(留)と名付けたといわれています。

また、佳枝が父頼義とともに軍勢を率いて、真弓山に陣をとったのは14歳のときで、6月1日でした。この日を元日とし、神前に松や竹を飾って義家の元服（当時は15歳になったことを祝う習わし）を祝いました。

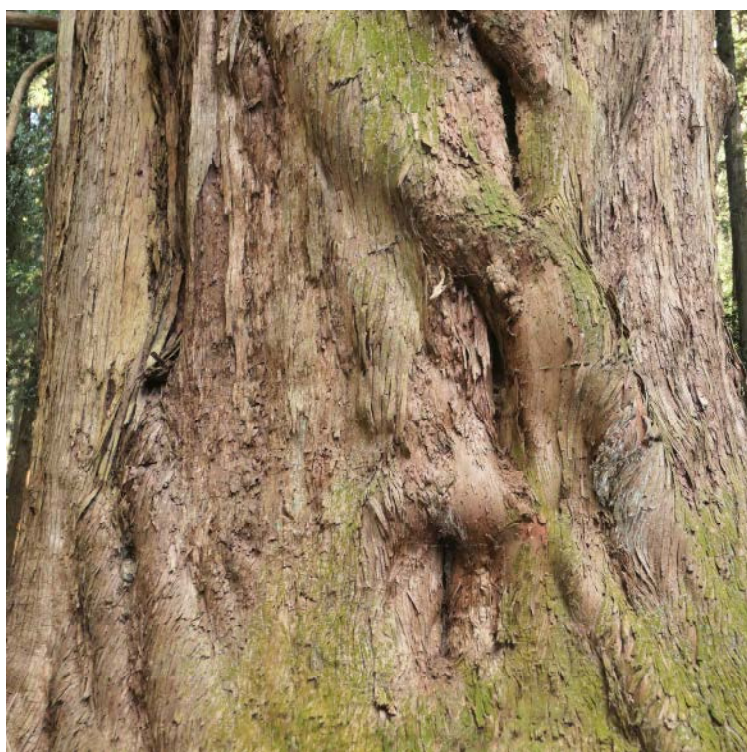
すると、6月というのに激しい雪となり、またたく間に降り積もりました。父と子は、「我が軍の勝利疑いなし」と兵士たちを励まし、力強く前進した。馬が踏み固めた雪は、まぶしいばかりの白い「寒水石」に変わったとされています。

【常陸太田市の史跡と伝説】より

8. 真弓神社の^{じいすぎ}爺杉

幹周囲10.4m，根回り15.4m，高さ45mもある県内最大級の巨杉です。樹齢950年と推定されています。県指定の天然記念物となっています。

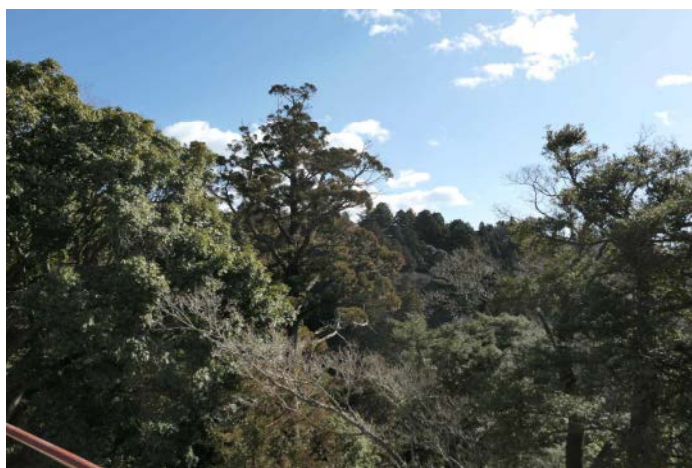
この杉に聴診器を当てると，杉が水を吸い上げる音が聞こえるほど勢いは旺盛です。以前は婆杉もありましたが，1884年（明治17年）に落雷により消失しました。



9. 真弓山周辺に残された貴重な自然

真弓神社周辺には，古くから信仰で手厚く保護された社寺林が残っています。樹齢数百年という杉の古木の林床には県内でも数少ない貴重な植物が見られます。また，海岸にも近いため温暖な地方に生育する植物も見られます。

今日のハイキングの中で紹介します。



真弓山の大理石

小目町付近から真弓神社方面を眺めると、山の斜面の石が切り取られている部分があります。ここからは大理石という真っ白な石が採取されています。大理石という名前は、中国の大理（中国雲南省大理）で産出することにちなんでいます。



大理石は結晶質石灰岩と呼ばれる方解石の結晶からできている岩石で特に不純物の少ない真っ白なものをさします。

昭和30～40年代頃には純白の大理石が沢山採れ、「寒水石」の名前で国会議事堂やなどの壁面などにも使われています。

主成分は炭酸カルシウム（ CaCO_3 ）です。小中学校の理科実験で、うすい塩酸をかけると二酸化炭素が発生したあの石です。なお、結晶の小さいのが石灰石、石灰石の塊が石灰岩です。

なお、日立市の太平田で採れる石灰石は日立セメントの原料として、また、真弓山でとれる石灰石は旭鉦末(株)などで粉砕されて製品化されています。



寒水石とは

茨城県北部から産する結晶質石灰岩の石材名です。阿武隈高地南部端の古生層から掘り出され、白色や濃緑色・灰色の縞模様がある。特に、日立市および常陸太田市で採石されたものは水戸寒水石と呼ばれています。阿武隈山地南端を占める古生層中の石灰岩が花崗岩の貫入による熱変性を受けて再結晶し、比較的粗粒の方解石からなるもののの中で、特に純白の物をさします。

【日本大百科全書（ニッポニカ）より引用】

真弓山の大理石

大理石は石材としての石灰岩の一般的な呼び名です。

大理石は石灰岩（ライムストーン＝貝や動物の遺骸等が海の底で積み重なってできた石）が熱と圧力による結晶化で堅く変化した石です。

「結晶質石灰岩」とも呼ばれます。主な成分は方解石で、個々の結晶が肉眼でも見える大きさになっていることも多いです。ちなみにカルシウムは40%含まれます。阿武隈山地が、大昔に海底が隆起した名残で常陸太田市真弓町その他、日立市石名坂町、日立市成沢町の大平田、福島県の阿武隈鍾乳洞などが石灰岩の山地として有名です。



真弓山で石灰岩が採れるわけ

では、どうして真弓山から石灰岩が採れるのでしょうか。

下の写真をご覧ください。○印がついているところは石灰岩の場所を表しています。石灰岩には2億年以上も前に住んでいたサンゴの化石やフズリナとよばれる貝の祖先などの化石が含まれることから、暖かい海で積もったサンゴや貝の残骸から出た石灰成分が固まって作られていることが分かっています。ここはかつて海底であり、積もってできた石灰岩の地層がハワイ方面からのプレートに押し出されて盛り上がったと想像できます。つまり、山の標高がほぼ平らなのは、大昔この山頂付近は海岸の波打ち際だったのです。地球の力ってすごいですね。



常陸太田市内田町から真弓山方面を眺める

ハワイ諸島が 日本に衝突する!

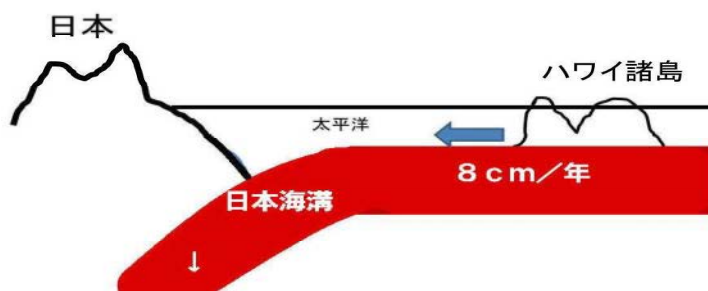
と言っても、今日とか明日すぐに起きる話ではありません。

実は、ハワイ諸島は地球の表面にある太平洋プレートにのって東から西へ常に移動しています。その速さは1年間に8センチメートル。お笑いになるかも知れませんが、その速さで移動すると100年で8m、1000年で80mと動くのです。

日本列島からハワイまでは約6,430kmですから、その計算で行くと
$$\frac{6,430 \text{ km} \times 1000 \text{ m} \times 100 \text{ cm} \div 8}{80,375,000 \text{ 年}}$$

で、なんと 約8000万年後にはハワイが伊豆諸島あたりに着いてしまう計算です。8000万年という年数は地球誕生から約46億年、人類が誕生してからは800万年から5000万年とされていますから、決して論外な年数ではないということです。

まあ、日本列島に衝突する前に日本海溝に沈んでしまうでしょうね。いや、その前に、私たちは存在していませんね（笑い）



真弓山で見られる珍しいもの

1 アサギマダラ（マダラチョウ科）



アサギマダラは日本で唯一「渡り」をする蝶として知られます。秋になると、全てではありませんが、春とは逆に南方へ最長2000kmもの距離を旅立つのです。

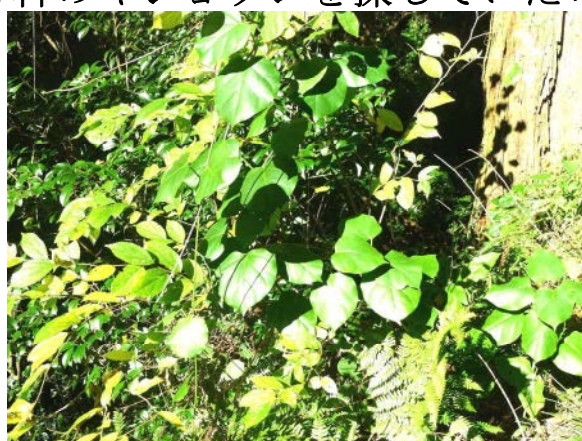
しかし、近年、真弓山や西金砂山で越冬する幼虫を見かけようになりました。春になると蛹となり成虫が羽化します。

地球温暖化のせいか、11月でも真弓神社周辺でアサギマダラが飛んでいます。

おそらく、幼虫の食草であるガガイモ科のキジョランを探していたのですね。



アサギマダラの幼虫



食草のキジョラン

2 カゴノキ（クスノキ科）

真弓神社のすぐ下にカゴノキが生えています。暖地に生える常緑樹で樹高は15～20mになります。樹皮は灰褐色～暗褐色で、点々と丸い薄片になってはげ落ち、あとが白い鹿の子模様になります。このことから「鹿子の木」と名づけられています。

通常千葉県以西で見られますが、真弓山にも生育しています。



真弓山周辺で見られる鳥類 (五十音順)



アカゲラ



アオゲラ



ウグイス



ガビチョウ



カルガモ



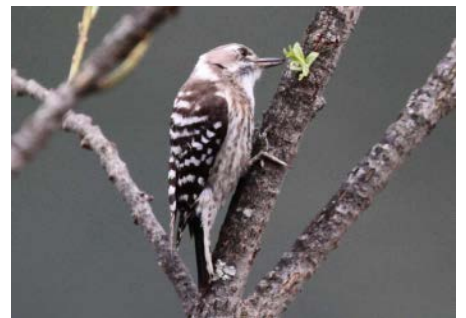
カワラヒワ



キジ



キジバト



コゲラ



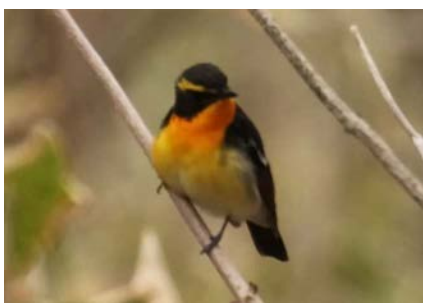
サシバ



サンショウクイ



シジュウカラ



キビタキ



スズメ



セグロセキレイ



チュウサギ



オオルリ



トビ



ノスリ



ハクセキレイ



ハシボトガラス



ハシボソガラス



ヒヨドリ



ホオジロ



ムクドリ



メジロ



モズ

種 類 名	レ	キジバト		トラツグミ	
アオゲラ		クロツグミ		ノスリ	
アオジ		コガラ		ハクセキレイ	
アオバズク		コゲラ		ハヤブサ	
アカゲラ		コサメビタキ		ハシブトガラス	
アカハラ		コジュケイ		ハシボソガラス	
イカル		コチドリ		ヒガラ	
ウグイス		サシバ		ヒヨドリ	
エゾムシクイ		サンショウクイ		ヒバリ	
エナガ		サンコウチョウ		フクロウ	
オオルリ		シメ		ホオジロ	
オオタカ		シジュウカラ		ホトトギス	
オナガ		シロハラ		ミソサザイ	
カケス		スズメ		ムクドリ	
カシラダカ		セッカ		メジロ	
カッコウ		セグロセキレイ		メボソムシクイ	
ガビチョウ		センダイムシクイ		モズ	
カルガモ		タヒバリ		ヤブサメ	
カワセミ		チョウゲンボウ		ヤマガラ	
カワラヒワ		ツツドリ		ヤマゲラ	
キセキレイ		ツバメ			
キジ		トビ			